資料①

水前寺江津湖公園利活用・保全計画中間見直し（素案）に関するパブリックコメントの結果について

意見募集期間

令和8年（2026年）3月18日（水）～ 令和8年（2026年）4月17日（金）

意見に対する市の対応

対応内訳	対応方法	件数
対応１（補足修正）	ご意見を踏まえて素案を補足修正または追加記載したもの	1
対応２（既記載）	既にご意見の趣旨、考え方を盛り込んでいる、あるいは同種の記載をしているもの	1
対応３（説明・理解）	市としての考えを説明し、ご理解いただくもの	0
対応４（事業参考）	素案には盛り込めないが、事業実施段階で考慮すべき事として今後の参考とするもの	1
対応５（その他）	素案に対する意見ではないが、意見として伺ったもの	2

意見の提出状況

・意見を提出された方の人数：5名

・意見の件数：5件

公表方法

・熊本市ホームページ掲載

・縦覧

（みどり政策課窓口
動植物園内
緑の相談所
水前寺江津湖公園広木地区管理棟）

意見の募集方法

LoGoフォーム、電子メール、郵送

提出された意見と、それに対する本市の考え方

番号	頁数	項目	ご意見等の内容	本市の考え方	対応内訳
1	計画案 P39	4　計画の内容 基本方針②生物多様性の保全及び自然と人との共存・共生	p39「4　計画の内容」にある基本方針②「生物多様性の保全及び自然と人との共存・共生」に関して、基本施策３の「江津湖の豊かな自然環境と資産・資源の活用を両立し自然と人との共存・共生を図ります」という表現は、すこし分かりづらい印象がある。また、この基本施策に対応する「主な取組」の内容もイメージしにくいように感じた。	いただいた意見をもとに、基本施策３の文章を修正し、基本施策３に対応する主な取組についても追記することで、分かりやすい表現に変更する。	対応１（補足修正）
2	計画案 p42	4　計画の内容 基本方針⑤ポテンシャルを活かした空間の利活用・回遊性の抜本的向上	公園利用の課題として「施設の老朽化」や「施設の追加」が挙げられているが、現状の方策は遊具やレジャー施設に偏っているように見える。一方、アンケート結果からは利用者が求めているのは自然と触れ合いながらゆったり過ごせる休息の場であることが分かる。実際の公園利用でも、特別な施設よりも静かに過ごす空間が求められている。 しかし、現状は座る場所が少なく、休憩できずに車に戻らざるを得ない状況がある。そのため、公園の魅力を高めるには新たな施設よりも、椅子やベンチを十分に設置し、気軽に休める環境を整えることが重要である。	いただいたご意見と同様に、休憩スポットの重要性について認識しており、基本方針⑤において休憩施設の追加に取組む。	対応２（既記載）
3	計画案 p25、p44	3　現状と課題 (5)利用者の減少 4　計画の内容 基本方針⑤ポテンシャルを活かした空間の利活用・回遊性の抜本的向上	水前寺江津湖公園の利活用計画に対し、日常利用者の立場から、利用環境の改善が重要である。公園は高い価値を持つ一方、日常的な整備不足が利用者減少の一因と考えられる。 具体的には、犬のマナー問題に対しては管理可能な範囲でのドッグラン整備を提案し、全体への影響を抑えつつマナー向上を図って欲しい。また、駐車場については混雑や安全面の課題から、事前予約制やゲート管理の導入を提案し、利便性と効率性の向上を目指す。さらに、ゴミや雑草などの管理不足に対しては、地域や市民と連携した協働型の維持管理とインセンティブ制度の導入を提案する。 総じて、新たな集客施策よりも、安心して日常利用できる環境整備と持続可能な運営の重要性を指摘している。	江津湖公園の利活用については、アンケートにおいても様々なニーズを把握している。 特に、駐車場拡充及び運営方法の検討の必要性（基本方針⑦）や多様な主体による持続的な経営・維持管理（基本方針⑤）についてもその重要性を認識しており、今後の事業実施段階において参考とする。	対応４（事業参考）
4	計画案 p42	4　計画の内容 基本方針⑤ポテンシャルを活かした空間の利活用・回遊性の抜本的向上	日頃から感じている提案として、砂取・神水側と出水・江津側を結ぶ「飛び石」を湖内に設置して欲しい。これにより散歩コースが増え、図書館や青年会館へのアクセスも向上する。交通量の多い狭い歩道を避けて安全に移動できる利点もある。さらに、景観面でも魅力が高まり、魅力的な公園づくりにつながると考えている。	江津湖公園のポテンシャルを活かした空間の利活用や回遊性向上に向けたアイデアとして今後の検討に生かす。	対応５（その他）
5	計画案 p44	4　計画の内容 基本方針⑦持続的な公園経営・次世代の担い手の育成	水前寺成趣園を愛用している立場から、公園内に空き店舗が多い現状をもったいなく感じている。そこで、元鰻屋の店舗に大手コーヒーチェーン店を誘致し、さらに南門付近の空き店舗にも人気のドーナツ店など集客力のある店を導入することを提案する。 大手コーヒーチェーン店は海外からの観光客にも馴染みがあり利用しやすいため魅力的であり、既存の和風建築を活かした店舗にすることで水前寺らしさも演出できると考えている。また、こうした店舗誘致により観光客だけでなく地元住民の来園も増え、公園周辺の活性化につながる。	水前寺公園の利活用やにぎわい創出に関するご提案として、今後の参考とする。	対応５（その他）

水前寺江津湖公園利活用・保全計画（本編・案）【概要版】

1 計画の趣旨

1-1　目的・区域・期間・構成

（1）計画の目的

水前寺江津湖公園の持つ価値をあらためて見つめ直し、今日の直面する課題を解決していくとともに、自然と人との共生による持続可能性を見出し、この貴重な財産を次の世代へ継承していくため、保全と利活用の両面から本計画を見直します。

（2）計画の対象区域

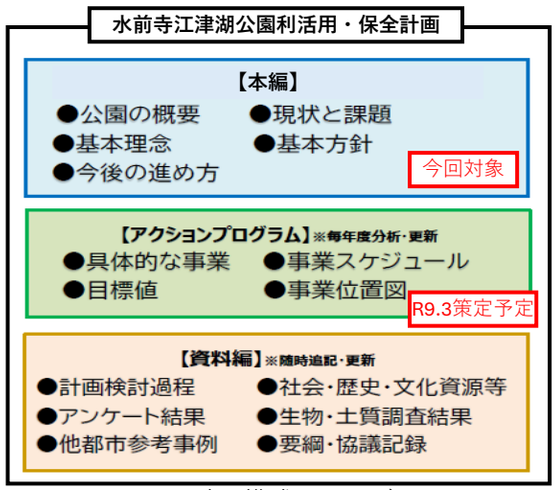
対象区域は、水前寺江津湖公園のうち、公園として供用している区域とします。

（3）計画期間

令和2 年度(2020 年度)から令和13 年度(2031 年度)
12 年間

（4）計画の構成

本計画は本編、アクションプログラム、資料編の３部構成とし、アクションプログラムについては本編策定後に策定します。



計画構成イメージ

1-2　計画の位置づけ

熊本市第8次総合計画

↓

第3次熊本市都市マスタープラン

↓

水前寺江津湖公園利活用・保全計画
熊本市動植物園マスタープラン

⇔

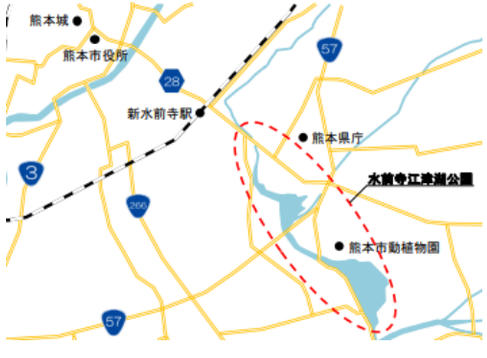
第４次熊本市地下水保全プラン
第４次熊本市環境総合計画
第２次熊本市生物多様性戦略
緑の基本計画

2 公園の概要

位置及び公園概要

水前寺江津湖公園は、本市の中心部から南東へ約5km の場所に位置する、東西に約2.0km、南北に約3.5km、公園面積126.9ha の都市公園（広域公園）です。

水前寺地区、出水地区、上江津地区、下江津地区、広木地区、庄口地区の6 地区に分けられます。



水前寺江津湖公園位置図

3 現状と課題

公園の抱える課題

「自然環境の保全」における課題

（1）水環境の保全
- 江津湖の湧水量
  近年様々な取組により、湧水量は回復傾向にあるが、地下水採取量の増加かん養域の減少による水収支の悪化が懸念されている
- 江津湖の水質保全
  公共下水道の整備により長期的に改善してきたが、ごみの流入やマイクロプラスチックの検出、硝酸性窒素濃度の上昇といった課題がある

（2）生物多様性の保全
- 外来水草の繁茂
  外来種の侵入や繁殖による生物多様性の損失や繁茂によるボート等公園利用の阻害
- ヘドロ等の堆積
  繁茂した水草の腐敗物や河川から土砂流入によるヘドロ等の堆積
- 指定外来魚
  電気ショッカー船のほか市民協働による駆除等により低密度管理が維持できているが、稚魚の駆除や市民協働による駆除活動への新規参加者の獲得が課題

（3）市民協働による保全活動
市民協働によるボランティア活動や学習活動イベントは一定の成果をあげているものの、持続可能性を高めるため、保全再生の取組を長期的に支える仕組みが必要

（4）豪雨時の冠水と防災の取組
地震時の一時避難場所等に指定されている一方で、冠水が避けられないため、防災についてハード・ソフト面のバランスの検討が必要

ボート利用を阻害する水草

水草が腐敗して堆積する様子

ボランティアの様子

豪雨時の冠水状況

「公園の利活用」における課題

（5）利用者の減少
指定管理者の調査では、近年利用者の減少傾向がみられる。

（6）動植物園や大規模イベント等他主体との有機的な連携と一体的活用
動植物園は水前寺江津湖公園に内包されているが、一体性に乏しくポテンシャルを活かしきれていない。公園で開催されるイベント等の連携

（7）公園のアクセス性・周辺の回遊性
江津湖は広範であることから、新たな需要を取り込むために回遊性の向上が重要

（8）歴史・文化・観光的価値の発信・活用・継承
様々な文化資源が知られていないため、活用継承していく環境整備が必要

（9）更なる利活用に向けた官民連携など
施設の老朽化や官民連携の取組の周知、公園への案内や週末の駐車場の不足

水前寺江津湖公園利活用・保全計画（案）【概要版】

4　基本理念・基本方針

4-1　基本理念・基本方針

基本理念

「湧水により育まれてきた自然と人との共生」の継承

基本方針（基本施策）

自然環境の保全

基本方針① 清らかで豊かな地下水と健全な水循環の保全

○江津湖の湧水量の確保につながる地下水量の保全
○江津湖の良好な水質の確保につながる河川や地下水の水質の保全
○地下水を育む上流域の自治体や関係機関と連携し“水循環”の大切さや地下水保全に関する市民への意識啓発・醸成

基本方針② 生物多様性の保全及び自然と人との共存・共生

○江津湖が誇る生物多様性が豊かな自然環境の保全・再生
○江津湖の生態系に影響を及ぼす外来生物の防除の推進
○江津湖の豊かな自然環境とその価値を生かした公園の活用を両立した自然と人との共存・共生
○ハード・ソフトからなる治水・防災対策を行うことにより公園としての安全性を高めることによる自然と人との共存

基本方針③ 市民協働による自然環境の保全・再生

○江津湖の魅力及び自然環境の保全・再生へ向けた取組を発信することによる市民の機運醸成
○関連団体や学校教育と連携した江津湖の自然を感じ学ぶ機会を創出し、新たな担い手を育成
○市民や事業者が江津湖の自然環境の保全・再生に携わることができる仕組づくりと貴重な江津湖の資産・資源の次世代への継承

公園の利活用

基本方針④ 多様な主体・イベント等との更なる連携

○計画期間内に100 周年を迎える動植物園などとの、より緊密な連携による効率的で効果的な公園の利活用
○継続的に催しを行っている多様な主体と積極的な連携を行うことによる相互の魅力向上

基本方針⑤ ポテンシャルを活かした空間の利活用・回遊性の抜本的向上

○江津湖が持つ地域資源（美しい景観、歴史、文化）や個性（スポーツ、レジャー、水辺空間としての価値）に磨きをかけることによる公園の質の向上
○あらゆる移動手段を活用した、抜本的な回遊性向上
○高齢者・障がい者・こどもなど誰もが安心して利用できる公園づくり

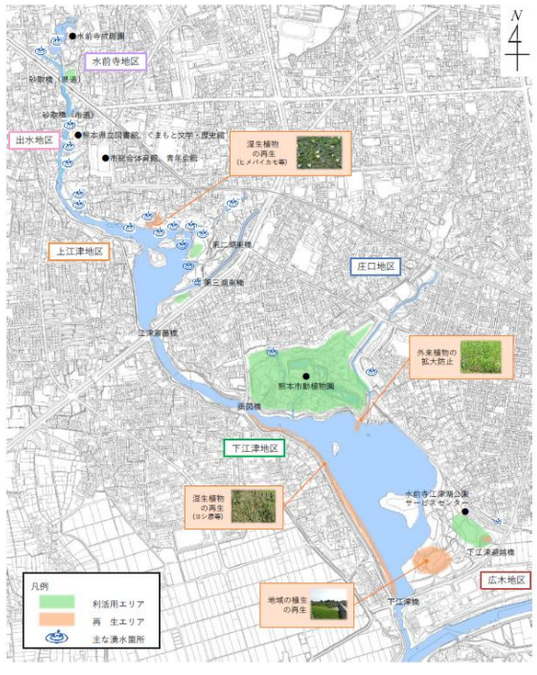
基本方針⑥ 歴史・文化・観光的価値の活用と継承

○江津湖の歴史・文化を通じ江津湖に対して興味をもつ仕掛け作り
○江津湖の歴史・文化資源の後世への保存・継承
○デジタル技術等を活用した相互価値の向上
○公園価値の積極的な発信と観光需要等を取り込むことによる利用促進

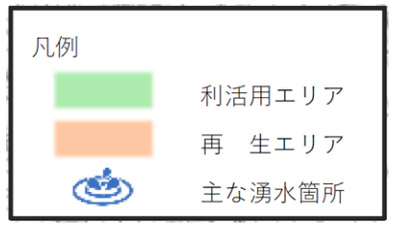
基本方針⑦ 持続的な公園経営・次世代の担い手の育成

○担い手の発掘・働きかけ・ネットワーク拡大等による持続可能な運営体制構築
○公園をデジタル技術等も活用した稼げる場所として、多様な主体による持続的な経営・維持管理
○市民、関連団体・企業、行政が連携し公園の利用幅を拡大

4-2　ゾーニング



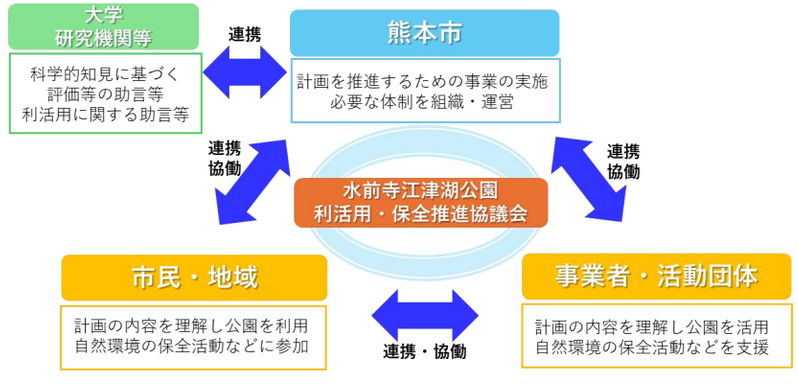
公園全域を、現在の自然環境や歴史・文化資源を守る「保全エリア」として設定した上で、生きものの生息・生育の場や外来生物の繁殖状況の変化等を踏まえながら、特に「公園の利活用を行うエリア」と「自然環境の再生を行うエリア」を設定し、これまで育まれてきた自然と人との共存・共生を、次世代へ継承していきます。



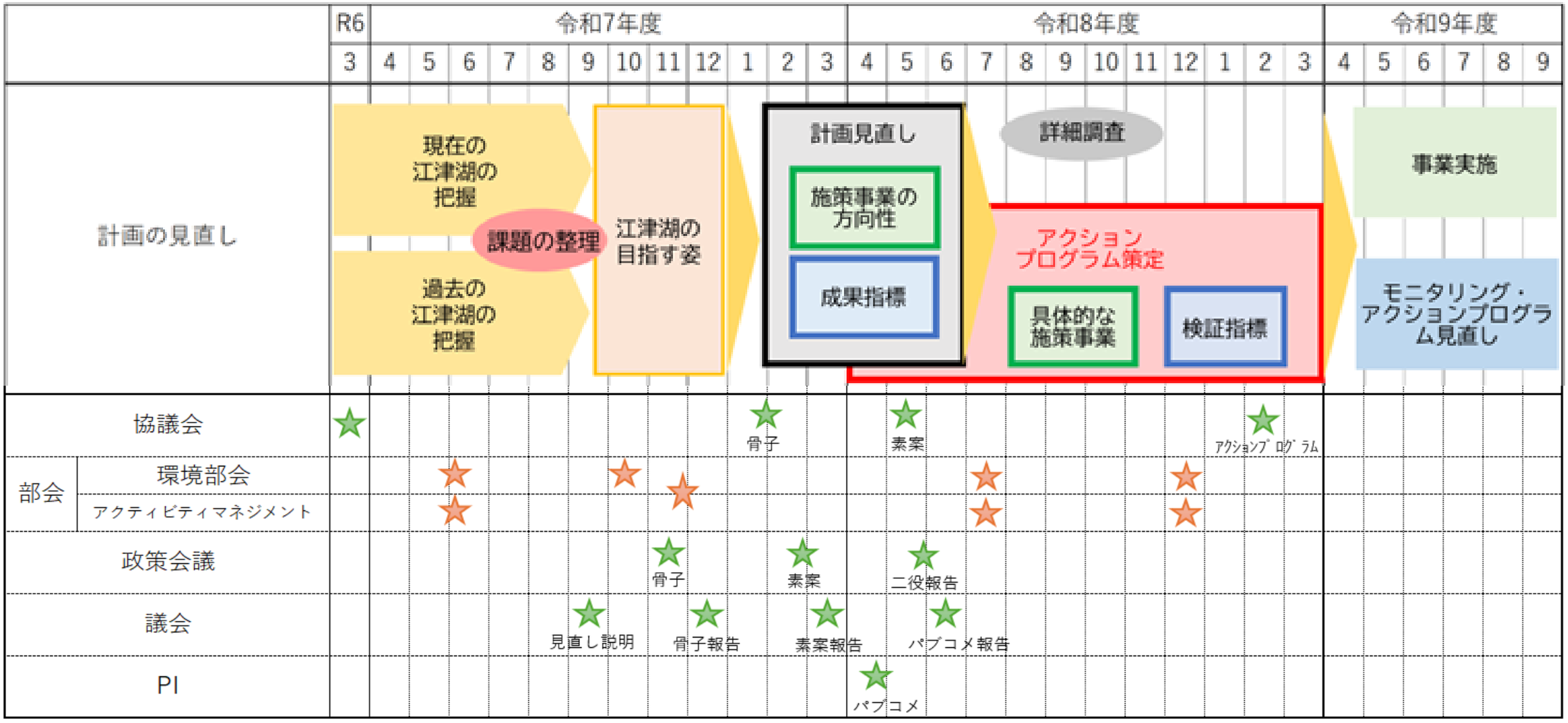
5 今後の進め方

行政をはじめ、市民や関連団体、企業などが連携した取組やエリアマネジメントによる運営等を行うとともに、PDCA サイクルに基づき進捗を管理します。

また、必要に応じて計画の修正を行います。



計画の見直しについて　今後のスケジュール

●今後のスケジュール

・基本計画（本編）は令和8年6月に改定
・アクションプログラムについては令和8年度末に策定